

よくある質問

K.K.TOYAMA <http://www.kktoyama.jp/>

問 1. 人はどうして同性愛等のセクシュアル・マイノリティになるのでしょうか？

答 1. 誰も好き好んでセクシュアル・マイノリティになるわけではありません。また、育児や教育の結果としてセクシュアル・マイノリティになるわけでもないようです。

むしろ、先天的な要因が決定的な影響を及ぼすようです。それが遺伝子レベルの話なのか、母体で発生する時期での話なのか諸説ありますが、決定的な説明は今のところはありません。また、自然界においては人間より下等な生物においても、同性愛的な行動が普通に観察されるようです。そんなことから、セクシュアル・マイノリティとは、実は必ずしも自然に反する行動や存在ではないというのが近年の一般的な考え方です。もちろん、精神疾患などではありません。

ただし、性同一障害については、医学的な支援が必要な場合が多いため、あえて障害という位置づけになっているという実情があります。

存在として少数派なので、異常と見做された歴史的経緯の中では、どうしても「どうしてそうなるのか」という疑問がおこりますが、例えば「異性愛として生まれる」か「同性愛として生まれる」かは、「男として生まれる」か「女として生まれる」というレベルと同じものだと考えるべきだと思います。ただ、男女は半分ずつの比率になるのに対して、異性愛と同性愛の比率は極端に前者に偏るという事情があるので、「異常あるいは特別」という位置づけに甘ん

問 5. セクシュアル・マイノリティを認めると、世の中にいいことがありますか？

答 5. 基本的にはこれは人権の問題ですから、いいも悪いもありません。世の中にいいことがあるかというの次元の違う問題です。

けれど、今セクシュアル・マイノリティの多くの人たちが自分の人生を前向きに生きているかと問われると、答えはどちらかという「NO」であるような気がします。多くのセクシュアル・マイノリティが自分のセクシャリティの問題に由来する自分の中の葛藤を整理するために使う精神的エネルギーは莫大なものです。中には疲れ果てて自殺を決行する人も珍しくありません。将来を悲観して投げやりな人生を送る人もいます。

人口が減少すると言われ、ただでさえ元気な人間が必要なこの日本で、このように3%~5%の人たちが放置された状態で人生を送っています。

もし、セクシュアル・マイノリティの人たちがいきいきと過ごせる世の中になれば、日本社会もまた元気を取り戻すきっかけにならないでしょうか？

そのように考えると、差別など不当な社会的な扱いというのは、社会にとってはマイナスになるのだと思います。